

# 九高だより



第 11 号

平成 24 年 2 月 1 日発行



様々な分野で「グローバル・スタンダード」という言葉が叫ばれる中、東京大学を発信源として、大学の「秋入学」が活発に議論され始めた昨今です。新聞記事を読んで、「ついに、日本の大学入試が真夏に行われるようになるのか・・・」と、早計に考えました。受験はやはり、吹きすさぶ寒風に思わず身が引き締め、「この辛さに耐え忍んで頑張ろう」という気持ちに似合う厳冬こそ、ふさわしい気がしていたからです。ところが、「秋入学」についての東大の提言にしても、現段階では入試時期は従来どおりであり、「サクラ・サク」という合格発表の時を早急に変えようというわけではないと知り安堵しました。大学の「国際化」を目的とする議論の必要性は別にして、「入学」という人生の大きな節目に、桜の花びらが春風に舞う光景が醸し出す季節感、日本人にとって捨てがたいものに思われるのです。しかしながら今は、現行の「春入学」に向かって、「冬入試」に全力を尽くすべき時なのでしょう。

さて、ついに私立大学の一般入試のシーズンとなりました。国公立大学の出願も開始され、「いよいよこれからが本番だ！」と気合を入れつつ気持ちを引き締めている生徒諸君も多いことでしょう。例年に比べて、今年はインフルエンザの流行がやや遅いようですが、これからがもっとも用心しなくてはならない時期です。規則正しい生活、十分な栄養や睡眠をとるなど、体調管理に細心の注意を払い、最良のゴール（目標）を目指して、最後まで全力を尽くして欲しいものです。生徒諸君から続々ともらえる朗報に接することは、「本当に教師になってよかったなあ・・・」という気持ちを噛み締めることができる、最高の喜びを与えてくれます。そして今年もきっと、そんな歓喜と感動を何度も繰り返し味わうことができる、「豊穡の春」の訪れを心待ちにしています。



推薦入試などで進路がすでに決定し、あるいは就職が内定した生徒諸君にとって、卒業式までのこの1ヶ月間をいかに過ごすかが、新しい進路での「開幕ダッシュ」に、もっとも大切なことでしょう。プロ野球選手にたとえれば、今は、シーズン開幕前のキャンプインに先立つ「自主トレ期間」です。春から始まる新しい環境において、年間を通して活躍できるように、必要とされる課題を認識し、具体的な目標を定め、着実に実行しなくてはなりません。基礎学力を充実させるため教科の勉強をするのもよし、資格や検定試験に挑むのもよし、新聞の精読や読書に勤しむのもよし、身体を動かし体力作りに励むのもよし、規則正しい生活を送りながら、自分の資質を高めることを心がけて下さい。進路決定の喜びが、近い将来、虚しく苦い思い出に変わらないようにするために、ある意味ではこれからが本当の頑張り時なのです。

進級が近づいた1・2年生においても、同様のことが当てはまります。先月も書きましたように、今この時を、来年度に向かう「ゼロ学期」として大いに活用しなければなりません。3年生の姿を見て、「まだまだ、自分にとっては先のことだから」と、他人事のように考えていれば、時は無為なまま過ぎ去ってしまいます。1年生普通科の生徒は文理の選択に、デザイン科の諸君は専門科目について認識を深めることに、そして2年生は進路志望の検討に徹底的に取り組み、新しい学年のスタートダッシュに万全に備えましょう。

先月にもご案内申し上げましたが、1月31日(火)より2月5日(日)まで、福岡県立美術館にて、デザイン科展・卒業制作展が開催されています。今年のテーマは「ISM(イズム)それぞれの主義」です。デザイン科の生徒た



ちの、個性溢れる作品に込められた主義主張のぶつかり合いと調和、そしてその真髓(エッセンス)をご鑑賞され、是非ご意見ご感想をお聞かせ下さい。県立美術館にて、多くの皆様のご来場をお待ち致しております。

部活動におきましては、春からの各クラブの躍進を大いに予感させる、幸先の良い結果が届けられました。男子バスケットボール部が新人戦県大会のベスト4に残り、12年ぶりに九州大会への出場権を勝ち取りました。サッカー部も、新人大会中部ブロック予選で勝ち上がり、県大会進出が決定しています。両クラブの今後の大会での健闘を祈るとともに、これから多くの部活動から、ビッグニュースが続々ともたらされることを期待しています。



新校舎と第2体育館の完成も間近になりました。現在の教室と隣接する部分の工事により、少々騒音により授業がやりにくい状態もありますが、もう少しの辛抱です。しかしながら、創立五十周年に向けた教育環境作りは、施設・設備の建設だけに頼るものではありません。新しいカリキュラムを構築し、教育活動をさらに充実させるため、来年度より現行の完全週5日制から奇数週の土曜日出校及び7限授業(1限45分)が導入され、新学期に向けてその具体的な準備が着々と進められています。教職員一同、「日本一生徒を大切に作る学校」という大目標の実現のため、心を一つに合わせ、さらに学校の活性化に努めることを誓っています。保護者の皆様のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 2月の行事予定

日	曜	内容	日	曜	内容
1	水	デザイン科展・卒業制作展	15	水	
2	木		16	木	後期入試合格発表
3	金	前期入試(生徒自宅学習日)	17	金	
4	土		18	土	第2回数学検定
5	日		19	日	第3回英語検定二次
6	月		20	月	
7	火	前期試験合格発表	21	火	
8	水		22	水	
9	木		23	木	
10	金		24	金	
11	土	建国記念の日 後期入試 校外模試(2年特進)	25	土	
			26	日	
			27	月	3年生出校日
12	日		28	火	
13	月	3年卒業判定会議	29	水	特別表彰式・同窓会入会式
14	火	3年出校日			

### デザイン科展・卒業制作展【1月31日(火)～2月5日(日)】

福岡県立美術館の1・3階を展示会場とします。展示時間は10時～18時(入館は17時30分まで)です。また、「映像メディア表現卒業制作上映会」が、2月5日(日)同美術館1階で、1回目11時～12時、2回目13時～、14時、3回目15時～16時のスケジュールで行われます。

## 前期入試【2月3日(金)】後期入試【2月11日(土)】

先月実施された専願入試に引き続き、上記の日程で前期・後期入試が実施されます。新校舎の建設中ですが、受験生の皆さんにご迷惑をかけないように細心の注意を払って、入試を実施致します。入試会場の下見については、前期入試は2月2日(木)の15:00以降、後期は2月10日(金)の15:00以降受験会場を開放致します。ただし、受験教室内への立ち入りはできません。なお、本校生については、前期入試の前日は準備のため2限授業、入試当日は自宅学習日になります。後期入試については、生徒への影響はなく、前日も平常授業が実施されます。

## 校外模試【2月11日(土)】(2年特進クラス)

進研模試(マーク式)を、2年特進クラスを対象に行います。自己採点の精度が入試出願の命綱です。センター試験本番まで残り1年、現段階での学力の到達度を把握すると同時に、時間のペース配分など、マーク式のテストへの適応力を高めることが目的になります。



## 第2回数学検定【2月18日(土)】第3回英語検定(二次)【2月19日(日)】

上記の日程で、数学検定と英語検定(二次)が行われ、多数の生徒が検定資格取得に挑みます。英検二次は、英語による面接試験ですので、先生に練習をしてもらう生徒の姿が、学内のあちこちで見かけられるようになります。なお、今年度は校舎建設のため、本校での英検二次の実施はありません。試験会場のアクセスについて、事前に確認して下さい。

## 特別表彰式・同窓会入会式【2月29日(水)】

3月1日(木)の卒業式に先立ち、創立者に因む「中村治四郎賞」を始めとし、「県知事賞」、「優秀賞」等が授与される各賞受賞式、及び同窓会入会式が行われます。この式には、2年生が在校生を代表して出席致します。先輩たちの在学中の輝かしい足跡を称えるとともに、長い間多くの先輩から受け継がれた、よき伝統を継承する式でもあります。各賞の内容については、卒業式でご報告申し上げます。

## Q高のちょっとした噺「センター試験会場にて」

センター試験の受験生の激励のため、市内の私立大学に設けられた試験会場に行きました。試験場は、大学入試センターの指定によるので、勝手に選択できるわけではないのですが、ここ数年同じ会場で受験することになっています。会場の大学には、本校の卒業生(すでに40代)が売店を経営していて、ちょっとした遅れた年始のあいさつをするのが恒例行事です。「あけましておめでとうございます」「あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」。こうして私にとって、人知れず年始のゴングが胸の中で鳴り、センター試験及び入試の季節の本番の開始が告げられるのです。

会場には、10名以上の先生が駆けつけていました。本校からの受験生は約250名なので、生徒約20数名に1人の引率です。試験を直前にして、たとえ何が出来るわけでもないとしても、「頑張ってるね」「ベストを尽くせ」

「しっかりやれよ」などと生徒に声かけをし、緊張をほぐしたり、時には、テンションを高めさせるのも、教師の大切な役割だと思います。手前味噌ですが、学校の望ましい雰囲気というのは、こんなささやかな生徒との接触の積み重ねから生まれて来るものではないでしょうか。

激励の言葉と共に、「キットカット」(『きつと勝つ』を連想させる商品名のチョコレート)や「黒糖ドーナッツ」(?)を生徒に手渡す先生もいます。一見、パフォーマンスに取り組む前の「餌付け」のようにも見えますが、生徒の顔がほころび、待ち受ける試練のずっしりとした重みを瞬時忘れたような余裕のポーズを見せる姿に「何とか最後まで全力を尽くして頑張る」という健気なメッセージを感じます。「甘いものかわりに、ナマの小魚を渡したら、試験中にお腹をこわしたら大変だからなあ・・・」。いそいそと試験会場に消える、真剣な表情の生徒達の後姿を目で追いながら、胸の中に浮かんだくだらない冗談を思わず飲み込みました。・・・曲芸をするイルカやアザラシのマネをしたのは、私の方でした。



(HP・九高の四季「ブログの噺」より転載)

## 教育雑感

現在、本校では創立50周年の記念事業として新校舎や新設備の建設が進行していますが、その一方、学校の半世紀のあゆみを記す記念誌の編集も進められています。そしてその中に掲載されることになっている、本校の半世紀を描いた「クロニクル」(年代記)を作成・執筆するために、現在、学校新聞や便覧や、その他残された資料や書類を整理し、年表にまとめる作業が行われています。係の先生から借りて、その年表を手にとって眺めていると、「あー、こんなことがあったなあ」「あの時、そんな風にしたねえ・・・」と、思わず様々な感慨に耽ってしまいました。

「開校してすぐ、沖縄修学旅行が実施されていた時には、まだ『返還前』でパスポートが必要だったのか」「学生帽が廃止されたのは、この頃だったなあ・・・」「今でこそ当然のものと思われるJR九州高校口は、この時できたんだねえ」。数枚の紙を眺めているだけで、いろいろな思い出が胸の中に溢れ、時間の経過を忘れそうでした。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と言われます。過去の「出来事」や「経験」をしっかり整理・分類し、記録に留め、それを冷静に認識・再評価することによって、単なる過去の事実の羅列を、学ぶべき「歴史」に変えることができるのでしょうか。歴史は自ずからできあがるものではなく、そういう意味では、「賢者」になる準備には、けっこう手間ヒマがかかるものです。「温故知新(ふるきをたずねて あたらしきをしる)」。このことわざに習って、昔のことを懐かしがるだけではなく、年表を参考に「歴史」に学び、「歴史」を俯瞰し深く広く考えながら、本校の将来の進むべき方向性やビジョンの確立に役立てることが大切だと思います。

ここで提案です。ご家庭でも年表を作ってみたらいかがでしょうか。ビデオやDVDの映像やアルバムの写真を眺めて、思い出を分かち合うことも大切ですが、年表を作成することにより家族の歴史を詳細にたどれば、懐かしく一家のあゆみを振り返りながら、将来の夢・希望・生き方を「再点検」し、「軌道修正」ができると思います。「あーあ、あの時、こんなことがあったなあ。・・・その後が、大変だったけどねえ」「そういえばその時、そんなことが起こったねえ。結果としては、よかったかもしれないけれど」。そして、そのような「反省」を伴う気づきの数々が、やがていつか、家族と共に一生懸命生きて来た証しとして、しっかり胸に刻まれ、いつでも心に甦らせることができる、本物の「スイート・メモリーズ」になることでしょう。

**自分が行動したことすべては取るに足りないことかもしれない。  
しかし、行動したというそのことが重要なのである。**

*Whatever you do will be insignificant, but it is very important that you do it.*

マハトマ・ガンジー(インドの政治的指導者)

(「九高だより」は毎月本校ホームページに掲載されます。URL <http://www.kyushu-h.jp/>)